

# 平成30年度後期・学部授業評価まとめ

整理番号	講義名	講義コード	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	農学入門Ⅱ	18340103	117	97	83%	3.96	全体的に4以上の高い点数となっている。これは、本講義において各教員が自分の最近の研究成果等を話すため、学生が興味を持って聞き入ることによって考えられる。前期と同様に、学修マネジメント(学生と教員のやりとり)に双方向性があったが3.8という最も低い点であった。これは教員が一方的に話をするという形式によって考えられる。しかし、それでも3.8という評価は、教員によっては研究に関する質問を受けたりして、学生との対話を含めていることによって考えられる。	できるだけ質問を受ける時間を取るように指示したい。	
2	農学入門Ⅰ	18340104	116	74	64%	3.92	「教員は十分に準備して臨んでいた」「教員は熱意を持っていた」の評価は4.1と高く、「授業内容についてより深く学びたいか」の評価も4.0と高かった。一方、「学生と教員とのやりとりの双方向性」に関する評価は3.2と低かった。これらの評価を含めて、全体的にみても前期に開講した同じ科目の評価と同様の傾向がみられた。また、科目群平均と比較するとほぼ平均的な評価ではあったが、いずれの項目も4点前後で満足度は高いと判断でき、本講義の目的は達成できたといえる。	専門的な内容を易しく講義し、「農学」を幅広く知る機会を提供するとともに、「学びのきっかけ」となるように引き続き心がけていきたい。前期と同様に今回のアンケート結果からも明らかのように、大人数の学生が相手ではあるが、教員各自が常に学生の理解度を確認しつつ、双方向性を持たせる工夫をする必要がある。また、従来からスライドを資料として提供して欲しいとの要望があるようなので、徐々に対応を進める。シラバスやルーブリックについても、実際の講義内容をもとに、さらに詳しく記載する。	特になし
3	生物生産生態学	18340203	116	67	58%	3.73			
4	生物化学	18340204	160	141	88%	4.12	ある程度評価されていると考える。これは、基礎的な講義内容に関連した、最先端の研究や会社による応用例を講義に含めた効果と思われる。一方で、一部の学生が、講義内容が難しく、進行が速い為、講義に対して困難さを感じていることがわかる。	講義の内容を減らすことは、履修目標の達成と両立が困難になるが、講義内容を絞り込むことで対応する。	
5	有機化学Ⅰ	18340205	122	78	64%	3.45	番号 共51および共53の評価満足度平均が3.7であり、講義の設計は概ね適切だったと思われる。また、番号 共68および共81の評価満足度平均が4.0であり、満足度のいく十分な内容を学生に提供出来たと考える。ただ、番号 共211の評価満足度平均が2.7と良くない評価であったが、講義は大学初等に一般的に使用されるテキストに沿って進行し、テキストの範囲内の内容であるので、講義のレベルが高すぎるとは思えない。また、「試験が難しすぎる」、「試験範囲が広すぎる」との意見もあったが、試験はテキスト内の一部の演習問題の類似問題であることから特に、試験は問題は無いと考えている。 番号 共-10の総合評価は3.2であったが、評価5の学生が22%、評価4の学生が23%であり、満足度のいく講義を実施することが出来たと解析している。	「授業の進行スピードが速すぎる。話し方が速い」等の意見が見受けられた。講義内容の3～4割は低年次の内容の復習であったので、次年度は復習部分を削り、新たに学ぶ内容の説明に十分な時間を充てるように配慮する。	
6	物理数学	18340206	115	72	63%	4.19	各項目の平均値は、「シラバスの学習目標は明確だった」=4.1、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」=4.1、「授業の難易度は適切であったか」=4.0、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=3.8、「教員の説明はわかりやすかった」=4.0、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」=4.3、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」=4.3、「授業には遅刻することなく毎回出席した」=4.3、「この授業内容についてより深く学びたいか」=3.9、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」=4.1、以上であった。 また、自由記述欄に、板書に関する要改善点の指摘が1件、その他、プラス評価と判断できるコメント6件が寄せられた。	平均値4.0未満の項目は、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=3.8、「この授業内容についてより深く学びたいか」=3.9、以上の2項目であり、改善が必要である。双方向性を上げて、魅力ある授業内容にする必要がある。自由記述欄の板書に関する指摘は他の担当授業科目も含めて改善したい。また、自由記述欄の「数学も意外に面白いと思った」とのコメントは、本授業科目の最上位の目標であり、この種のコメントが増えるように、さらに魅力ある授業内容としていきたい。	特になし。
7	数値解析学	18340207	72	52	72%	4.04	「授業の難易度は適切であったか」、「授業には遅刻することなく毎回出席した」、「この授業内容についてより深く学びたいか」の3つの項目の評価が科目群平均を下回った。そして、自由記述欄に「難しかった」とのコメントが寄せられた。しかしながら、これら3つの項目の評価が顕著に低いわけではなく、回答者の6割以上は良い評価を下していた。したがって、受講者の理解度の分布がHigh群とLow群に明瞭に乖離していたと考えられた。	受講者との面談を通して、「授業の難易度が高い」と感じられている理由の1つに学習時間の不足があると考えられた。レポートの頻度を高め、受講者に理解度向上の機会を与えとともに、受講者の理解度の把握に努める。そして、理解度の優れない部分においては復習の時間を設ける。また、移転後初年度の講義で経験した知見を次年度に活かし、遅刻者数および欠席者数を減らすように工夫する。	特になし。
8	数値解析学	18340207	72	52	72%	4.04	アンケートの回収率が32.5%と低かったので、参考程度であるが「総合的に、現在この授業に満足している」の評価において、そう思う、強くそう思うが90%を超えたことから、ある程度有益な授業であったと言えるかもしれない。一方、難易度が適切でないと回答した学生も見られたことから、来年度は授業内容を精査する必要があると感じた。また、自由記述欄で講義に対する感謝の言葉が寄せられた。このようなフィードバックを励みに、講義がマンネリ化しないように、常に改善していかなければならないと思った。	講義がマンネリ化しないように、毎年新たな取り組みを試行する必要がある。授業内容を一部精査するとともに、学生の理解度を高める新たな取り組みを導入したい。	
9	ミクロ経済学	18340209	43	34	79%	4.34	専門色の薄いコース共通基礎科目であるにもかかわらず、すべての質問項目において評価が3.9～4.6と比較的高く、すべて農学部平均を上回った。総合評価が4.2と高いばかりか、授業の改善要望に関する自由記述もなく、高い評価を得ることができた。	総じて高い評価を得ることができたので、現在の授業を踏襲していきたい。ただ、学生のニーズは多様であるので、授業中に学生の要望を積極的に聞くなどして、柔軟な対応を心がけたい。	
10	政治経済学	18340210	51	24	47%	4.17	筆の項目を除いていずれも科目群平均以上を評価を得ているので、全体として、授業の狙いや到達目標は達成されていると評価できる。しかし「驚異人は毎回の授業で学ぶべき重要な目標を明確に示した」で科目群平均を下回る3.8の評価だった点は、改善を要する。	各回の授業冒頭に、当該時限での講義内容で教員から伝え、受講生に把握してもらうべき到達課題を、端的に示し、それに沿った講述を進める方向で改善する。	
11	遺伝学	18341201	34	27	79%	3.73	「授業の難易度は適切であったか」「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」などの評価が平均値よりも低かった。	授業の難易度については、その内容が他の授業の理解にも必要であると考えられるため、これ以上レベルを下げる、もしくは、範囲を狭くすることは困難である。そのため、スライドに工夫を凝らすなどよりわかりやすい内容に努める。双方向性についても出来る限り時間を作って、学生との対話に努める。	
12	作物学総論	18341202	57	30	53%	4.25	本講義は、PPTとプリントを用いて進行したが、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」や「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」、「教員の説明は分かりやすかった」などの項目が高い評価であった。一方で「この授業内容についてより深く学びたいか」が4.0と若干低かった。	全体的な評価としては、悪くなかったと思われるが、自由記述欄に「配付資料の情報を増やしてほしい」との記載があった。次回は、スライド枚数に応じた配付資料(情報)を心がけたい。また、より双方向性を意識し、学生がより深く学びたいよう努めたい。	

# 平成30年度後期・学部授業評価まとめ

整理番号	講義名	講義コード	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
13	園芸科学総論	18341203	45	34	76%	4.08	設問4と設問9を除けば、平均値は4.0以上であった。設問6～8では平均値が4.3で一定の評価を得られているが、「学生と教員とのやりとりの双方向性」(設問4)や「この授業内容についてより深く学びたいか」(設問9)では平均値がそれぞれ3.8、3.9であり、次年度に向けた改善の必要性を感じている。多くの受講生に評価4～5の回答をしていただいていることはありがたいが、その一方で設問1を除く各設問で評価1を付している受講生が1～2名いることにも留意したい。	先に述べたように、双方向性(設問4)、授業内容への探究心(設問9)の平均値が低かったことから、次回以降の講義では、この点に留意しながら取り組んでいきたい。本学期から伊都キャンパスでの講義が開始され、従前よりも多様な学生が受講していることを鑑みながら、さらにわかりやすい授業、満足度の高い授業ができるよう、努めていきたい。	講義最終回到授業評価アンケートに関するアナウンスを行った結果、回収率は75.6%で、学部全体の回収率(64.8%)を上回った。次回以降も回収率の向上に努めたい。
14	植物生理学	18341204	46	23	50%	4.09	「教員の説明はわかりやすかった」と「教員は授業に十分準備して臨んでいた」と回答した学生が過半数を超えた。	出席カードに質問を書かせて授業の最後に提出させている。今回の講義では、質問を書いた学生には授業が終わった後にこちらから声かけを行い、質問に答えていった。学生の反応は良かったと感じた。次回の講義についても学生への声かけを続け、理解度への効果を検討していきたいと思う。	
15	微生物学	18341205	55	29	53%	3.87	授業の内容並び動機付けに関しては問題はないと思われるが、自主的に考察したり調べたりする姿勢がどのようになっているかが不明である。	小試験あるいはレポートなどを課すことにより、主体的に勉学に取り組んでいけるようなことを試みる予定である。	
16	基礎昆虫学	18341206	48	36	75%	4.19	「教員は十分に準備して臨んでいた」「教員は熱意を持っていた」などの評価が高かった。また、「教員の説明の分かりやすさ」や「学生と教員とのやりとりの双方向性」に関する評価も比較的高く、半数前後が5ポイントをつけていた。「より深く学びたいか」について評価が低かったため改善の余地があるが、総合評価は半数近くが5ポイントをつけていたことから、総じて満足度は高いと判断できる。	これまで「学生と教員とのやりとりの双方向性」についてはあまり評価が高くなかったが、質問があれば出席用の紙に書いてもらい、それに毎回丁寧に答えたのがこの項目の評価を上げた要因だと思われる。また、学生が主体的に学習するよう心がけ、調べる姿勢を身につけさせることはある程度できたが、じっくりと考える時間は少なかつたように思われる。次回の講義では、考える力を培うためにも、学生が主体的に思考・学習できるように、創意工夫したい。	「主体的学修」を評価するのに「授業には遅刻することなく毎回出席した」という設問(項目)があるが、このアンケート結果をみても教員が得られる情報は少ないように思われる。むしろ、「授業以外にも積極的に調べた」といった設問の方がよいと思う。
17	生物統計演習	18341207	32	20	63%	3.23	本講義の内容を数年ぶりに一新した。受講生は32名、アンケート回収数は20名でアンケート回収率が60%程度であった。注意喚起して提出(入力)してもらう必要があった。教員(授業者)の示す学習目標は明確(「シラバスの学習目標は明確だった」の項目別スコアが3.7)で、学生の受講態度も良好(「授業には遅刻することなく毎回出席した」の項目別スコアが4.4)であるにも関わらず、総合評価は2.9と顕著に低かった。「授業に出席して教員の講義を聴いても、なかなかわかったような気がしない」という典型的な消化不良講義(演習)となっている。ただし、本講義は「演習」科目であり、各回の授業後に「演習」の成果としての「レポート」を課している。これらのレポートの提出率は100%で受講内容を概ね理解していると思われるので、当初の学習目標は達成できていると考えられる。	これまでの講義内容のアンケート結果と本年度のアンケート結果を直接比較できないので、「講義内容を数年ぶりに一新した」ことが、総合評価が低い要因であるかどうかは不明である。しかしながら、「授業に出席して教員の講義を聴いても、なかなかわかったような気がしない」という特徴は例年の本授業(演習科目)でも担当教員が感じていたところである。授業構成(本演習科目)の改善に関する自助努力が不可欠である。	総合評価が2.9と顕著に低かった要因のひとつに、受講前に受講者が習得した知識(授業単位)に数年前とは差が生じていることが考えられる。農学分野では、従来、進学後の2年生後期に「数理統計入門」(必修科目)の受講を計画し、この基礎的学習(座学)を踏まえて、数理統計に関する演習科目(本講義)を開講していた。基幹教育院の設置とともに、この「数理統計学入門」をより基盤的な学習科目として基幹教育院科目(「数理統計学」(選択必修科目:農学部推奨科目))に設定し、農学部では進学前の2年前期に開講することとした。しかし、基幹教育院の選択必修科目となったがゆえに、全員が受講するわけではなく、農学部学生の約半数が、「基盤的な学習科目として基幹教育院科目(「数理統計学」(選択必修科目:農学部推奨科目))」を未履修のまま進学している。本演習科目の開講については、授業構成(本演習科目)の改善に関する自助努力はもちろんだが、農学部における「数理統計学」に関する学習の制度設計の改善を含めて考える必要がある。
18	植物育種学各論	18341307	22	9	41%	3.71	本講義の担当は21回目であった。受講生は19名、アンケート回収数は9名でアンケート回収率が50%以下と低調であった。提出に関してより注意喚起する必要があった。評価の項目別スコア(5段階評価)は概ね3.5以上で授業実施内容としては総じて健全であると考えられる。本年度は回収率が低く評価内容を総括することは困難であるので、少数意見について考察したい。項目別スコアが3.5未満のものを取り上げる。学習デザイン・マネジメントならびにインストラクションに弱点が見出された。学習デザイン・マネジメント関係では、「授業の難易度は適切であったか」の項目別スコアが3.4、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の項目別スコアが2.9、インストラクション関係では、「教員の説明はわかりやすかった」の項目別スコアが3.1であった。特に、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」と「教員の説明はわかりやすかった」では、複数の受講生から「2: そう思わない」もしくは「1: 全く思わない」の回答があった。	「植物育種学各論」として「植物育種」の基盤的情報を教授(情報の提供)することについては、達成していたと考えられる。このことは、試験における到達度をみても9割以上の受講生が講義内容、試験内容を消化吸収していたことから裏付けられた。一方で、「植物育種学各論」の後半で取り上げた最新の知見・技術の紹介にあたる部分の授業内容に改善の余地があるのではないかと推察する。	
19	植物病理学各論	18341308	47	21	45%	4.61	本講義は指定教科書を基にして、PPTおよびプリントを用いて実施した。特に、受講生との双方向性を重視して、講義を進めた。受講者全員が確実に理解して、次の講義に臨めるような配慮をした。そのため、回収率は高くはないものの、総じて満足度は高かったと判断できる。	双方向性の講義を実施するなかで、基礎的な知識の習得を重視した。反面、応用的な領域をあまり盛り込むことができなかったと思われる。そのため、次回の講義では、双方向性を保ちつつ、応用領域を話題に加えるなどの工夫を検討していきたい。	
20	熱帯作物・環境学概論	18341309	56	20	36%	3.96			
21	応用昆虫学	18341310	38	37	97%	4.55	「シラバスの学習目標は明確だった」以外のすべての項目において、担当講義の評価は科目群平均を上回っていた。とくに「教員の説明はわかりやすかった」、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」および「教員は、授業に対して熱意を持っていた」の評価は4.8以上であり、非常に高く評価されていた。このことから、本講義の目的は達成できたといえる。	相対的に評価が高くなかった「シラバスの学習目標は明確だった」および「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」に関して改善を行う。とくに、双方向性については、授業中に学生が積極的に発言するように取り組む。	特になし

# 平成30年度後期・学部授業評価まとめ

整理番号	講義名	講義コード	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
22	土壌学	18342201	27	21	78%	4.3	<p>授業アンケートの集計結果(回収率77.8%)によると、シラバスの学修目標は概ね明確であり(4.2)、授業回ごとの目標も明確であり(4.5)、授業の難易度も適切であった(4.3)と考えられる。また、教員-学生間の双方向性も高く(4.2)、説明も分かり易く(4.3)、教員の授業に対する準備も十分であり(4.5)、教員の授業に対する熱意も十分であった(4.7)と考えられる。多くの学生は、遅刻することなく毎回出席したが(4.2)、「より深く学びたいか」の問いに対しては3.9とやや低い値となったが肯定的な範囲内であった。総合評価では、総合的にこの授業に対して高い満足が得られていると考えられた(4.2)。</p> <p>また、自由記述回答には、下記のコメントがあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで土壌というものを深く考えたことはなかったが、講義を受けて土壌のことを少しずつ知って、もっと土壌について知りたいと思うようになった。質問コーナーが面白かった。</li> <li>・授業は全体的にとてもわかりやすかった。</li> </ul>	概ね、高い評価が得られていることから、次回の講義でも今回の授業のスタイルを継続する。また、学生がより深く興味を持つように工夫したい。	本講義の授業アンケートの回収率(77.8%)は、全体平均(64.8%)よりは高かったものの、Moodleを毎回利用したにもかかわらず、また期末試験日の講義時間内に実施したにもかかわらず、期待したよりは低かった。今回は、授業アンケートにかかる時間をもっと長くとることとしたい。
23	気象学	18342202	46	18	39%	4.28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学修デザイン項目は、90%以上の受講者が評価4以上であった。</li> <li>・教員の授業に対する熱意も95%の受講者が評価4以上であった。</li> <li>・総合的な満足度も90%の受講者が評価4以上であった。</li> </ul>	高い評価が得られていることから、次回の講義でも今回の授業のスタイルを継続する。また、学生がより深く興味を持つように工夫したい。	その他の意見1件として、授業スライドのレイアウトの一貫性の不足が指摘された。
24	水環境工学	18342203	46	20	43%	4.27	<p>各項目の平均値は、「シラバスの学習目標は明確だった」=4.1、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」=4.1、「授業の難易度は適切であったか」=4.0、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=3.8、「教員の説明はわかりやすかった」=4.0、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」=4.3、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」=4.3、「授業には遅刻することなく毎回出席した」=4.3、「この授業内容についてより深く学びたいか」=3.9、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」=4.1、以上であった。</p>	平均値4.0未満の項目は、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=3.8、「この授業内容についてより深く学びたいか」=3.9、以上の2項目であり、改善が必要である。双方向性を上げて、魅力ある授業内容にする必要がある。	特になし。
25	水理学 I	18342204	37	17	46%	4.24	<p>質問項目全10項目ともに、「4:そう思う」と「5:強くそう思う」と回答した受講生が7割と超えていた。また、満足度点が全質問項目ともに4を超えて、農学部開講科目の平均満足度点よりも高く評価されていた。担当科目は数物系科目である。農学部学生において数物系科目は不得意とされ、かつ気嫌いされる科目であるなかで、本科目は非常に受講生にとって満足のいく科目であったと分析することができる。当該分野の基礎的科目であり、他の授業科目との関連性が高い本科目が、非常に高く総合的に評価されていることは、講義担当者としても満足いく授業を提供できたことと分析できる。なお、自由記述欄に「とても分かりやすかったです。1年次の基幹物理学が〇〇先生だったら留年しなかったらもうとすら思いました。ありがとうございました。」とあり、一人でもこのような感想を抱いてくれたことに、少なくともやりがいを感じた。</p>	学修デザイン・マネジメント、インストラクション、主体的学修、学修意欲のいずれも満足度4を超えていたことから、今年度の講義方式に全く問題はなく、次年度に向けた改善点をとくにないとする。穴埋め式の講義テキストや毎回の授業で課す演習問題などが非常に高く評価されたと思われるので、次年度も同じ講義方式を採用したい。	設定されている質問項目はいずれも適切と考える。とくい、追加すべき項目は思い浮かばない。ただし、当面の課題はアンケートの回収率と思われる。アンケートは受講生のとつての義務との位置づけをし、回答しなかった受講生には何らかのペナルティを課さないと、回収率の向上は期待できないと思う。
26	土質理工学 I	18342205	22	8	36%	4.51	<p>今年度から新しい授業評価(授業アンケート)方法に変わったが、回収率は36.4%(22人中8人のみ回答)と低かった。授業評価結果で農学部開講科目の平均値より数値がよかった(高い)項目は、共-51(シラバスの学習目標は明確だったか)、53(教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示したか)、60(学生と教員とのやりとりには双方向性があったか)、67(教員の説明はわかりやすかったか)、68(教員は、授業に十分準備して臨んでいたか)、81(教員は授業に対して熱意を持っていたか)の6項目、ほぼ同程度であった項目は、共-211(授業の難易度は適切であったか)、18(授業には遅刻することなく毎回出席したか)、221(この授業内容についてより深く学びたいか)、10(総合的に考えて、現在この授業に満足しているか)の4項目であり、悪かった(低い)項目はなかった。全体的には、学部の平均より幾分高いという結果であった。</p> <p>学期末試験結果(平均点が高い、不合格者数が少ない)や受講状況(欠席・遅刻、内職・居眠りが少ない)、課題レポートの提出状況(提出の遅れが少ない)などから判断すれば、今回の授業アンケート結果は、(回収率は低かったが、)授業の現状をある程度反映していると思われる。しかし、授業に能動的に参加してなかった人が若干存在したことも事実である。</p>	受講状況や学期末試験結果、課題レポートの提出状況、授業アンケート結果などを踏まえて、授業内容や教え方の継続的な改善に努めたい。特に、授業のテーマ・目標や授業方針を明確に伝えるとともに、授業中の質疑応答や課題レポートなどを通して、学生の理解度を絶えず把握しながら授業を進めるように努めたい。また、タイムリーな話題や現場(実務)の問題を授業で取り扱うことによって、授業(内容)に興味・関心を持たせ、より能動的な姿勢で授業に臨ませるようにしたい。授業アンケートについては、回収率向上のために有効な対策を講じたい。	特になし。
27	測量学	18342206	21	7	33%	4.57	<p>基幹教育から専門へ進学してすぐの専門的な講義に対して、学生達はかなり戸惑っていたように思える。講義では15週に分けて幅広い内容を説明し、各週に確認テストをするも、専門内容をイメージするのが難しかったのではないと思う。また、講義は観測値の誤差評価と精度が問われる分野であるが、有効数字や根拠数字の説明能力にやや劣る学生も見受けられた。</p> <p>全般的に見て、最終の評価テストから分析すると、理解できていないであろう学生たちと二分するような結果となった。この結果から判断すると、講義で理論的に説明するよりも、もう少しイメージが描けるように噛み砕いて簡易に講義すべきかと分析した。</p>	今年度の講義内容、評価テスト結果から分析して、講義内容を理論的・抽象的に説明するのではなく、学生達がイメージしやすい具体的な説明への取り組みを考えていきたい。また、数字に対する考え方や誤差と最確値の基本的な説明をもっと時間を設けて行う。さらに、各週確認テストできちんと理解度を把握していく。	
28	生物生産環境工学概論	18342208	23	8	35%	4.65	<p>学生の評価は高かったため、これを維持し、更に講義を充実させる。</p>	現時点では大きな内容変更は考えていないが、一部講師の交代など、新規性を加味していく。	

# 平成30年度後期・学部授業評価まとめ

整理番号	講義名	講義コード	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
29	構造力学Ⅱ	18342308	21	8	38%	4	今年度から新しい授業評価(授業アンケート)方法に変わったが、回収率は38.1%(受講者21人中8人のみ回答)と低かった。授業評価結果で農学部開講科目の平均値より数値が悪かった(低い)項目は、共-60(学生と教員とのやりとりには双方向性があったか)、67(教員の説明はわかりやすかった)、18(授業には遅刻することなく毎回出席したか)、221(この授業内容についてより深く学びたいか)の4項目、同程度であった項目は、共-51(シラバスの学習目標は明確だったか)、53(教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示したか)、68(教員は、授業に十分準備して臨んでいたか)、81(教員は授業に対して熱意を持っていたか)、10(総合的に考えて、現在この授業に満足しているか)の5項目、よかった(高い)項目は、共-211(授業の難易度は適切であったか)の項目のみであった。 授業の受講状況(欠席・遅刻、内職・居眠りが多い)や課題レポートの提出状況(提出の遅れ、未提出者の増加、内容の質的低下)などから判断すれば、今回の授業アンケート結果は、(回収率は低かったが)授業内容や教え方などに不満を持っている人が複数存在したことを的確に反映していると判断した。	受講状況や課題レポートの提出状況、授業アンケート結果などを踏まえて、教え方については、継続的な改善に努めたい。特に、受講状況や課題レポートの提出状況・内容などを通して、学生の理解度を絶えず把握し、必要があれば、説明・演習の補足、追加資料の配布・説明、個別指導、などを適宜実施したい。また、学生の課題レポートへの取り組みについては、これまでは自主性を重んじていたが、今後は締切期限を厳守するなど、自主的な取り組みの向上につながる対策を実践したい。 授業アンケートについては、回収率向上のための工夫・対策を講じたい。	特になし。
30	利水工学	18342317	19	14	74%	4.42	概ね高い評価が得られた(総合評価の平均4.6)。一方で、「授業には遅刻することなく毎回出席した(平均3.6)」、「この授業内容についてより深く学びたいか(平均3.7)」の項目の評価が低かった。	今回点数が低かった項目は、受講生側の意欲(主体的学修、学修意欲)に関する項目であった。単位取得だけを目的としている受講生もいるため、これらの項目で一部の学生の点数が低くなるのは仕方ないと考えている。そのような受講生にも「総合的に考えて、現在この授業に満足している」は4以上の評価を受けているので、来年度以降も同様の評価が得られるように努めたい。	
31	農地保全学	18342318	22	6	27%	4.15	今年度から新しい授業評価(授業アンケート)方法に変わったが、回収率は27.3%(22人中6人のみ回答)と低かった。授業評価結果で農学部開講科目の平均値より数値が悪かった(低い)項目は、共-60(学生と教員とのやりとりには双方向性があったか)のみであり、他の共-51(シラバスの学習目標は明確だったか)、53(教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示したか)、211(授業の難易度は適切であったか)、67(教員の説明はわかりやすかったか)、68(教員は、授業に十分準備して臨んでいたか)、81(教員は授業に対して熱意を持っていたか)、18(授業には遅刻することなく毎回出席したか)、221(この授業内容についてより深く学びたいか)、10(総合的に考えて、現在この授業に満足しているか)の9項目は同程度の評価であった。 学期末試験結果(平均点が低い、不合格者が多い)や受講状況(内職・居眠りが多い)、課題レポートの提出状況(提出の遅れや未提出者の増加、内容の質的低下)などから判断すれば、今回の授業アンケート結果は、(回収率が低かったため)現状をあまり反映していないと思われる。	受講状況や学期末試験結果、課題レポートの提出状況、授業アンケート結果などを踏まえて、授業内容や教え方などの継続的な改善に努めたい。特に、授業のテーマ・目標や授業方針を明確に伝えるとともに、授業中の質疑応答などを通して、双方向的な授業となるように心がけたい。また、タイムリーな話題や現場(実務)の問題を授業で取り扱うことによって、授業(内容)に興味・関心を持たせ、より能動的な姿勢で授業に臨ませるようにしたい。 授業アンケートについては、回収率向上のために何らかの工夫・改善を図りたい。	特になし。
32	水文工学	18342319	19	8	42%	4.18	「学習意欲」を除き、他の設問では評点が4を超えており、授業に大きな問題は無かったと思われる。ただし、「学習意欲」の評点が3.6であり、当該授業に対する学生の意欲を高めることに改善の余地があると思われる。	アンケート回収率が高くなかったので(42.1%)、次回は最終授業中で回答時間を設けるなどして、より多くの学生の声を集めたい。	
33	地域環境問題演習	18342320	21	5	24%	4.02	平均値が4.0を下回った項目は、「シラバスの学習目標は明確だった」(3.8)、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」(3.8)、「教員の説明はわかりやすかった」(3.8)であった。また、4.0となった項目は、「授業の難易度は適切であったか」、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」であった。	研究室開講科目で、回答率が23.8%であるため、フィードバックは難しいが、次年度の開講に際しては、各研究室が左記の分析結果を意識して、授業に臨む必要がある。	
34	生物生産システム工学	18343201	21	5	24%	4.26	アンケート回収率が23.8%と低く、参考程度にしかならないが、評点は概ね満足のできる基準の4を超えており、双方向性の対話もある程度成立していた。3名の教員による分担科目であったが、アンケート結果から判断すると問題なく授業が実施されたものと判断する。	本科目は次年度より廃止となる。	
35	生物生産システム工学測定法	18343202	13	3	23%	3.8	アンケート回収率が低く、十分に評価を判断することは難しいが、講義における学習目標の明確化が不十分であるとの結果であった。本講義は計測や測定理論の理解が学習目標であったが、実際の実験・計測は伴わないため理解不足や計測目標等が不明確な部分があったと考えられる。次年度は本科目は廃止になるが、今年度の結果を踏まえ実験・実習科目の説明内容の参考にしたい。	本科目は次年度より廃止となる。	
36	機械設計学	18343308	13	6	46%	4.07	機会設計は殆どが製図実習であるので理解度は高いと思われる。	パソコンによるCAD実習を今年度より採用している。	
37	応用熱工学	18343309	13	7	54%	4.14	ほぼすべての項目で概ね満足であるとする評価基準4をクリアしているが、説明が分かりにくいとの回答が1件のみ見受けられた。テキストは冊子体の配布を希望する者があり、この対応が必要である。総合的な満足度も基準を満たしているが、引き続き改善に努めたい。	テキストをMoodle上にアップロードするなどしてWeb上から常に関覧できるように対応していきたい。	テキストをアップロードして講義を行うためには、M2Bの動作安定化への対応が不可欠である。
38	自動制御工学	18343310	12	5	42%	3.56	アンケート回収率が低く参考程度であるが、講義の難易度が高く適切性について低い評価であった。また、講義の進行スピードが速く内容をフォローするのが大変だと自由記述があり、講義内容の難易度について改善を検討したい。	本科目は学外の非常勤講師が担当しており、次年度も引き続き同じ方にご担当頂くため、本アンケート結果を踏まえて講義内容(特に難易度)について検討を行って頂く。	

# 平成30年度後期・学部授業評価まとめ

整理番号	講義名	講義コード	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
39	経営科学	18344202	28	14	50%	4.38	全ての評価項目で4.1以上の評価であり、また、全ての評価項目で「科目群平均」以上の評価が得られた。特に、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」は4.7(科目群平均は3.8)、「シラバスの学習目標は明確だった」は4.6(科目群平均は4.1)、「授業の難易度は適切であったか」4.4(科目群平均は4.0)は、「科目群平均」平均を0.4ポイント以上上回っており高評価であった。「総合評価」は4.4であり、「科目群平均」の4.1を0.3ポイント回っており、評価2以下の回答もほとんど見られなかった。これらの点から、本授業の高評価で満足度は高いと判断でき、本講義の目的は達成できたといえる。	自由記載では、「毎回、前回の質問に答えて頂いたり、資料もわかりやすかったので、授業全体として理解しやすかった」、「テスト時間が足りなかった」等の記載があった。「問題の分量、難易度」については、学生の理解度をさらに把握して再検討を行い、授業の内容や進め方については、さらに充実を図りたい。	特になし。
40	流通経済学	18344203	31	14	45%	4.02	単純集計の結果は、科目群平均が4.1で、担当科目の評価も4.1であった。授業の双方向性が3.6で科目群平均3.8よりも低かった。	受講生が多くなると、双方向性を確保することが困難になるが、今後も理解度を確認しながら進めていく。	
41	経済数学	18344204	26	16	62%	4.22	全10項目中9項目において、科目群平均と同等もしくは高いポイントを得られたことから、概ね高い評価を受けることができたと考えられる。しかし、「この授業内容についてより深く学びたいか」が科目群平均より低いポイントとなったため、学生の学習意欲を高めるための取り組みが必要になると考えられる。	上記結果が生まれた一因として、本講義が学問の基礎的な内容を扱っており、現実社会との関連性が見えづらいことが考えられる。そのため、授業内容がどのように用いられるのかを強調するなど、学生の学習意欲を高めることができる工夫を行いたい。	
42	計量経済学	18344205	29	18	62%	4.13	科目群平均と本講義の評価を比較すると、本講義は6項目(共-51, 共-53, 共-211, 共-67, 共-68, 共-18)で平均を上回る評価、1項目(共-81)で同等の評価であった。しかし、2項目(共-60, 共-221)で平均を下回る評価となったため、この点を改善していく必要がある。 特に、共-221学習意欲の項目では、3名の回答者が評価2をつけているため、この結果については真摯に受け止め、次年度の講義を改善する必要があると判断した。	本講義は、シラバスにも記入しているように統計学と高等数学を就学していることが望ましい科目であり、需要サイドと供給サイドの行動様式をモデル化して分析する(分析結果の解釈も含む)講義である。そのため、統計学の事前知識がない学生やモデル化のイメージができない学生などにとっては馴染みにくい講義だと思われる。 今後は、共-221学習意欲を向上させるため、①統計学の知識不足を補うための補足説明を行う、②モデル化のイメージがし易いように具体的な例を紹介する、など配慮するよう心掛ける。	特になし
43	ゲーム理論	18344206	25	12	48%	4.12	共通項目については、おおむね平均かそれ以上の評価であった。 クロス集計より、総合評価との関連が強いのは、「説明がわかりやすかった」か否かであり、どちらでもない、そう思わないと回答した3分の1の受講生の総合評価が低い傾向がみられた。 コメントに双方向型の授業を望む声が多く挙がっていた。この点については、基礎を身につける講義の性格上、学部では犠牲にしているところであり、対応は難しいと思われる。	基本的には、これまで通りの授業を行っていきたいが、特に理解率の低い箇所がどこであるか、より把握に努め、説明方法等の改善を図っていききたい。	回収率が48%、回収数12と、授業評価を分析するに十分な数となっていないため、今年度は参考値とせざるを得ない。次年度は、回収数増加のためのアナウンス、意識付けを行いたい。
44	経済統計情報論	18344207	22	16	73%	3.77	個別項目については、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」および「シラバスの学習目標は明確だった」「この授業内容についてより深く学びたいか」の相対的に評価が低かったため、改善の余地がある。 なお、全体としては、概ね良好な評価と思われるが、各評価項目について一貫して消極的意見を持つ、1名ないし2名の学生が存在しており、特別な配慮が必要な学生かもしれない。	より明確な授業計画を持って、次回は、講義に当たりたい。	
45	社会調査分析論	18344208	23	11	48%	4.34	全ての評価項目で4.0以上の評価であり、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」以外の評価項目で「科目群平均」以上の評価であった。その中でも、「授業の難易度は適切であったか」、「教員の説明はわかりやすかった」、「授業に十分に準備して臨んでいた」の項目においては、4.5以上と高い評価であった。総合評価は4.4であり、2以下の評価は見られなかった。 これらのことから、本授業の評価は概ね高く、本講義の目標は達成できたのではないかと考えている。	座学と調査実習を兼ねた講義であるため、いかに準備して調査に臨めるかが毎年の課題である。グループワークや調査準備ではグループを作り話し合いを進めているが、今年度は、特に、他学科や多年次の学生が多く、学生間での授業に対する取り組み姿勢に差が見られた。この点をいかに解消し、学生の学習意欲を高めていくかが、今後の課題である。	毎年、実習調査先を見つけること、その調査先とのスケジュール調整、学内バスの予約状況、他の講義との兼ね合い...などから、土日中心の実習となります。調査先や学生への負担を考慮できる仕組み(カリキュラム)が何かあれば、と思います。
46	分析化学	18345204	79	62	78%	3.98	質問項目の平均点は全ておよそ4点であり、科目群平均とも相違いがなかったため、農学部の中では標準的な授業内容であると考えられる。 クロス集計の結果から、総合評価を高くつけている学生は総じて満足度が高い一方、総合評価が低い学生(5段階中2以下、回答の1割程度)はどの項目の満足度も低い、不満がある学生がいることを認識した。	現状の授業構成は過去のアンケートをもとに修正を重ねてきたものなので、大きな変更は不要と考えているが、授業についてこられない、または、不満がある学生を把握できるよう努めたい。	コメント欄で、授業評価(平常点と試験の評価)について聞いていたものと違うというものがあったが、評価基準について記載したシラバスを9月以前にアップロードしている。認識の齟齬が無いよう、次年度は講義初回での確認を徹底する。
47	単位操作第一	18345205	75	72	96%	4.41	概ね学生の意欲を引き出しつつ、上手く進行できたと考えられる。 全体の80%以上の学生が授業に満足しているとの解答を得たため、学生の要望に応じられていると考えられる。	引き続き、双方向性のある授業、学問・研究への関心につながる講義を行う。	概ね「分かりやすい」との評価を得られた。 授業はパワーポイント使用ではなく板書式にしており、学生の理解度を基準に授業の進行調整を行っていることが評価されたと考える。板書が分かりやすく、ノートが取りやすいとのコメントを得た。 また、「化学工学分野に興味を沸いた」、「もっと深く学びたい」というコメントが得られたことは喜ばしい。今後も学生の興味を引き出しながら授業を進めていきたい。  その他コメント: ・レポート提出は大変だったが、そのおかげでより授業の理解が深まった。 ・毎週授業が楽しみだった。 ・レポートの解説・解答を配布してほしい。

# 平成30年度後期・学部授業評価まとめ

整理番号	講義名	講義コード	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
48	基礎微生物学	18345206	86	73	85%	3.97	科目群平均より顕著下回っている項目が、共60の「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の3.2と共67の「教員の説明はわかりやすかった」の3.7である。双方向性については、まずは本講義がインタラクティブな講義ではないこと、そして、私自身が本講義が基礎科目ということから基礎科目の教育に重点を置き個々の学生の理解度に合わせた教育は行っていない点が原因と考えられる。また、自由意見にもあるように、レポート課題の解答の配布を行った点も反省している。次の、「説明がわかりやすかった」の評価が平均以下である点は、自身の話術能力の低さ、準備不足、そして基礎微生物学で扱う講義の内容がそもそも概論から各論にわたるといった性格上そもそも学生には理解しにくい内容が多くなっている、という点が原因であると考えられる。 平均を上回った、「この授業内容についてより深く学びたいか」については、この講義の準備の努力を通して、本講義の一つの主目標である、学生に当該分野の学問や研究に興味を持ってもらうという目標がかなったものとして、自賛したい。	上記の分析結果を鑑み、改善すべき点として、インタラクティブな講義ではないまでも、Moodleなどを利用して学生との対話も若干盛り込みながら授業を展開したい。また、学生にとって理解しにくい箇所については、難解箇所だからと分からなくてもよいとするのではなく、一人でも多くの学生にもれなく内容が理解できるように、工夫した説明を施していきたい。	
49	生命化学	18345207	74	60	81%	4.37	全項目で4.0以上であり、平均値より高い値であったことから学生達から概ね好意的に評価されていると判断している。特徴として共-221(学習意欲:この授業内容についてより深く学びたいか)は平均値より0.6ポイント高い4.5であり、評価5と4の合計が90%を超えていた。本講義がコース内の基礎的科目として2年生の学習意欲を呼び起こす契機となっていることが窺われる。一方で共-60(学修マネジメント:学生と教員とのやりとりには双方向性があった)は最も低い4.0であり、改善の余地が残された。	次回よりMoodle等を利用して学生との双方向性を確保する具体的な手法の導入を考えたい。	
50	物理化学	18345208	74	61	82%	4.2	概ね4.0以上で科目群平均より高い評価となっていた。ただし「学修意欲」が3.8と平均より低いため、今後は改善につとめていきたい。	これまで通りの授業を継続していくと共に、学修意欲の向上につとめていきたい。	
51	生物解析・機器分析法	18345312	33	24	73%	4.34			
52	生物化学各論Ⅱ	18345313	32	32	100%	4.14	多くの学生が5または4を記入しているのは望ましいことである。本講義は当分野の専門的知識を養う科目であり、分子生物学の概論ではなく、個々の細かな分子メカニズムを扱うので、興味の低い学生にとっては苦痛を感じる可能性があるが、止むを得ない部分もある。また、学年によって特徴があり、分子メカニズムにたいへん興味がある学生が多い年と、そうでない年もあるので、記入の分布も年によって異なるのも自然と思う。	全員が5、4を記入するまで、興味を持たせるのはかなり難しいものではあるが、1を記入されているところが2箇所あったのは何とか改善したい。	大学の教育は、わかっている学生をさらに伸ばすことが重要だと思うので、わかりにくいという学生が少数いても、講義のレベルは落とさず進める。しかし、説明の工夫を考えて、わからない学生の数を減らせるよう努める。
53	生物情報科学	18345314	24	20	83%	4.04	全体的に高い点数となっている。最も低かったのは、学修意欲の3.5であるが、数学に興味の低い農学部学生に対する講義の評価の点では、高い点数であるように思う。	内容をかみ砕き、農学部学生においても興味を持ち、理解できるような講義となるように努めたい。	
54	食品分析学	18345319	39	36	92%	4.23	評価項目結果通りであり、特に改善する必要はなく、授業の重要性と参加意義を十分に学生は認識しているようである。	特になし	
55	食品製造工学	18345321	47	35	74%	4.31			
56	微生物工学	18345322	72	69	96%	3.87	全体的に科目群平均より若干ではあるが各項目にて下回っている。理由としては、言い訳となるが、本科目は、前任の團元教授から引き継ぎ、今年初めて自身により講義を行った。講義の準備はゼロからであり、正直、さまざまな戸惑いもあり、準備不足は実感している。総合評価が3.9と4を下回っているのは大いに反省すべき点であるが、来年度からは準備不足は改善されるはずなので、深刻な問題とは正直考えていない。特に平均より顕著に悪い項目は、共60の「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の3.3と共67の「教員の説明はわかりやすかった」の3.6である。双方向性については、課外課題も含めて、工夫するよりは大きいにあると思う。授業が分かりにくいという点については、本講義の内容が数式を用いての説明がある分、教員にとっても学生にとってもそもそも難解であるという点が挙げられるが、最終試験では、学生は数式の問題もきちんと解答できていたので、これはむしろ教師としての自身の能力不足と言える。最後に、「この授業内容についてより深く学びたいか」が3.7であり、残念に思う。農学部において、工学的な内容を扱う講義である点否めない点はあるが、これも教員側の努力で向上できるはずと考える。	上記の分析結果を鑑み、改善すべき点として、インタラクティブな講義ではないまでも、小テストをまめにを行うとか、課題を工夫するなどして、学生との双方向性を少し意識した講義としたい。また、学生にとって理解しにくい箇所については、難解箇所だからと分からなくてもよいとするのではなく、一人でも多くの学生にもれなく内容が理解できるように、工夫した説明を施していきたい。また、これについては、抜本的な変更として、教科書を変更することも検討した。本講義の教科書は、歴史的な名著であるが、1980年代に執筆された翻訳本である。学生のレベルも考え、現代の教育レベルにあった教科書を選定することも考えたい。	
57	栄養生理学	18345335	62	59	95%	4.11	7項目で科目群平均を上回っていた。下回っている項目は、共-60「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」と共-67「教員の説明はわかりやすかった」であった。双方向性は、Moodleで、さらなる確保をしようと思います。前期栄養化学の未履修者が多いので、説明は、端折るところがあります。シラバスに栄養化学履修が望ましいと記載していますので、やはり積み上げてほしい、共-18「授業には遅刻することなく毎回出席した」月曜の1限です。遅刻者はおおかった。	Moodleによる授業を来年度からも引き続き実施します。	なし
58	食糧製造化学	18345336	55	49	89%	4.38	本講義は実生活に密着した内容であることから、興味をもって受講してくれた学生が多かったことが本アンケートから確認できた。また、自由記述でも興味深い内容であるとのコメントが多数寄せられている。学生の理解度を毎回のアンケートにより計りながら、講義資料を準備・修正し、毎回の授業で前回の復習と明確な授業テーマ・目標を明確化した点が高く評価されたものと考えている。ただし、丁寧に内容を説明するあまり、学生との双方向のやりとりに割く時間が絞られたため、今後はこの点を改善していきたい。	基本的な授業のあり方はこれで良いかと思われるが、できるだけ双方向の時間がもてるような工夫を心がける。より積極的な学びにつながるような雰囲気づくりに配慮したい。また、Moodleを活用した講義資料の準備も内容の理解を深めるためにさらに充実させたい。	
59	食品製造機械学	18345337	35	32	91%	4.48	ほとんどの項目において80%以上の学生が4以上の評価をしていたことから、概ね計画通りの講義が進められたと考えられる。	次回以降も同様に進めていくとともに、よりわかりやすい説明を加えることを計画している。	特になし

# 平成30年度後期・学部授業評価まとめ

整理番号	講義名	講義コード	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
60	食品保蔵学	18345338	44	32	73%	4.55	三年前から実施している「事前に簡単な調査を行わせて上で受講させる」という取り組みであるが、講義を通して出された質問を受講生に回答させることでより双方向性(評価ポイント4.7)を感じ取ってもらえたようである。ただし、シラバスに関しては評価が若干低い(評価ポイント4.4)ため改善する必要があると考える。また、学生の遅刻(ポイント4.5)に関しては遅刻したくないと思わせるように工夫したい。基本的には、本講義の「食品の保蔵や加工に関する基礎知識を認識あるいは習得する」という意義については理解して取り組んでもらえたと考えられる。	本講義は食品企業に就職するためには必須の講義であり、また、実生活にも役立つ内容である。企業で行われている最新技術等の情報収集に努め、基礎科目によって得た知識と応用分野である食品保蔵に係わる知識・技術との結びつきについて詳細に解説することで、学生にはより積極的に講義に臨みたいと思わせるようにしたい。来年度も授業への取り組み姿勢への高まりについて効果があると考えられる「事前調査」については継続してより充実させる形で実施したいと考えている。	今年度は移転により講義室の映像設備が良くなったため、講義がやりやすくなった。また、Moodleを利用して電子媒体でテキストや資料を配付することで昨年度まで行ってきた印刷作業がなくなり、講義の負担は減った。ただし、このことが学生の理解度を高めるのに効果的であったかどうかは分からない。
61	森林生態学	18346206	49	30	61%	3.87	2年後期の選択必修科目であり、理学部からの受講生も多い。高校時の生物履修の有無で事前理解度に大きな差がある。また、事前アンケートでは、ほぼ全ての学生が森林に行ったことがない、知らないという回答があった。そのため、できるだけ写真を増やし、幅広いレベルの学生に対してそれなりの理解が得られるように工夫したものの、生態学という幅広い学問分野の講義内容について対応しきれない部分もあったと考えられる。その一方で、教員の授業準備・熱意については比較的评价が高く、授業満足度も高かった。	今年度使用した教科書は受講生のレベルに合っていない部分があったので次回は、使用教科書の変更を検討する。それに合わせてシラバスを改訂し、授業スタイルについても学生の発言機会を増やすように変更を試みる。教材のM2Bへのアップロードも検討する。	
62	木質科学	18346207	43	24	56%	3.75	総合評価3.8と概ね満足レベルであった。例年通りの進め方であったが、試験の成績が極端に悪く、全体的に木質科学に興味がないのか、選択必修科目であるため、興味を持っていない学生がいたのかもしれない。	例年通り進めるとともに、必修科目であることを十分周知し、本コースに来た以上知っておくべき最低限のきそであることを周知する必要がある。	
63	環境地学	18346209	43	19	44%	3.67	全ての項目における平均値が科目群平均値をやや下回った。また、90%以上の回答は5、4、3のいずれかであった。しかし、2もしくは1の回答が全ての項目において僅かながらに存在した。特に、「学生と教員の双方向性」と「学生の遅刻・出席」の項目においては、1と2の両方の回答が見られた。	学生と教員の双方向性を高められるよう、授業スタイルを改善する努力を行う。また、学生が自発的に毎回出席できるよう、講義の魅力を増やす努力を行っていききたい。	
64	応用力学	18346210	45	22	49%	3.68	全般的に低い。学生をエンカレッジする目的で行った行為が否定的に捕らえられた面があり、反省している。	マイルドな感じで、黙々と行い、学生の理解度を上げるようにする。	
65	環境経営学	18346211	47	23	49%	3.87	総合評価が4.1であり、科目群平均が最低で3.8(共60:学生と教員とのやりとりには双方向性があった)であり、7項目で4ポイント以上だった。昨年度にくらべ、教員の熱意(共81)や準備(共68)、主体的学修(共18)が高まった。	シラバスの充実と担当教員間で内容の摺り合わせなどを行ない、学修デザインを高めたい。自由記入欄で本の紹介に対する評価が記載されていたので、森林科学の知識と興味を持てるように継続してやっていきたい。	
66	森林資源環境モニタリング論	18346301	12	10	83%	4.44			
67	森林砂防測量学	18346322	13	6	46%	4.25	評価は、5と4が多かった。1はなかった。この授業は専門科目でありながら測量と言う共通科目に近い内容であり、学生の学習に対する主体性は他の専門科目よりは低下する傾向がある。測量技術の進歩も早く、毎年試行錯誤の結果、授業内容が十分でなかった可能性はあるが、上記のように、現況の授業で十分と考えられる。森林測量や砂防測量に関する専門性を有する種々の課題に関して、講義中に受講者を指名して質問を行ったが、受講者のほぼ全員が大変良く対応しており、講義の内容と趣旨が良く伝わっていると感じた。しかし、少ない回答率とは言え、主体的学修に関する質問事項の回答が低かった。	予定した内容をすべて講義できなかった面もあるので、来年度に向けて、主体的学修つまり学習意欲などに配慮しながら、授業時間配分やレポート課題などについて検討を加えて改善に取り組みたい。	
68	森林資源・山村経済学	18346323	13	12	92%	4.22	総合評価(共10)が4.4で、授業の双方向性(共60)、説明の分かりやすさ(共67)、講義の準備(共68)、授業への熱意(共81)ともに科目群平均を上回っており、質の高い講義を提供できた。	この授業内容についてより深く学びたいかという項目が3.8であり、科目群平均3.9と大きな差はないものの、内訳を見てみると受講生の約40%が3と評価していた。本講義は社会科学分野の講義であるが、自然科学分野の研究室の学生も受講している。そのため専門性を保ちながらも他分野の学生にもより興味を持ってもらえるような授業を心がけたい。	特になし
69	樹木学	18346324	21	11	52%	4.2	「授業に遅刻することなく毎回出席した」の項目以外は5と4の評価が多く、概ね科目群平均を上回っていた。ある程度は学生が満足する講義ができたと考えられる。出席率をある程度(20%)成績に反映させることは開講時につづえていたが、出席率が低く、遅刻も多い学生がおり、これらの学生の成績は悪かった。	欠席、遅刻の要因が何であるかを明らかにする必要がある。講義の内容や方法に問題があるのであれば改善したいが、現時点では分からない。欠席、遅刻を厳しく取り締まるのは一つの方法と考えるが、それが適切かどうかは検討する必要がある。	
70	木材材質学	18346325	23	15	65%	4.04	総合評価4.1であり、概ね高い評価であった。「深く学びたいか?」が最も低く、3.8であった。研究室に配属後の講義であり、受講生のほとんどは他研究室であるため、仕方ないと捉えている。	次年度より、3年後期にはこの科目を提供しないカリキュラムになっている。	
71	木質材料学	18346327	8	3	38%	4.17	回答率が低い。しっかりとした回答の指導が必要。木質資源の有効な活用の考え方を教授するものの、木質材料という具体的製造品に関する講義であり、製造現場や材料の利用事例などを実際に体感できていない。	日頃の身の回りの木質材料への注意、観察を伝えているが、講義内でさらに写真や動画の講義、材料の実物の紹介などを進めていく必要がある。	
72	生物素材化学	18346328	25	22	88%	4.39	「総合的に考えて、現在この授業に満足している」の項目で高い評価を受けており、講義内容が充実していたと考える。特に、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」「教員の説明はわかりやすかった」「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」の項目で高く評価されており、研究の歴史や最先端研究の事例を交えながら講義を進めた点が学生の修学意欲向上に繋がったと分析する。一方、「双方向性があった」と感じた学生がやや少なかった。	「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」と感じた学生が全体的に少なかった。各回での予習・復習意欲を高める努力をするとともに、授業中に学生への問いかけを多くして、学修マネジメントに努めたい。	なし

# 平成30年度後期・学部授業評価まとめ

整理番号	講義名	講義コード	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
73	森林圏生物成分機能学	18346329	27	19	70%	4.17	3年後期の科目ということもあり、これまでの講義を元に、森林圏生物成分機能学の全体的な学問体系を俯瞰できるような授業デザインとしている。全体的に4以上の高い評価が得られており、受講者にとって満足度の高い講義となっている。その一方でシラバスの分かりやすさ、および学生とのやり取りの双方向性については課題が残っていると判断された。	シラバスを改訂し、授業スタイルについても学生の発言機会を増やすように変更を試みる。	
74	景観管理学	18346330	31	17	55%	4.3			
75	森林菌類微生物学	18346331	50	22	44%	4.26			
76	森林遺伝育種学	18346332	21	14	67%	4.24	回収率は比較的高い傾向を示した。平均値が4.24であったが、本講義については講義の目的と双方向性については再度検討する必要がある。	幅広い知識の取得を目的としているが、教養としての森林遺伝学について踏み込んでシラバスや講義内容を検討する必要がある。	
77	森林機能制御学演習	18346333	11	8	73%	4.6	全ての項目において、5、4、3のいずれかの値であり、科目群平均よりも高い値であった。特に、「学生と教員のやりとりには双方向性があった」の項目で5の値が87.5%と非常に高かった。一方で、「この授業内容についてより深く学びたいか」の項目でのみ3の値が回答されていた。	学生と教員の双方向性を維持していくよう試みる。また、授業の内容についてより深く学びたいような内容となるように工夫していく。	
78	森林工学	18346342	14	4	29%	4.43	アンケートの回収率が29%と低かったものの、各項目において5もしくは4の評価を得ており、いずれも科目群平均より高いものであった。但し、回答率が低いため、アンケートの趣旨等を周知していく必要があると考えられる。	「シラバスでの学習目標の明確性」に関する評価が「毎回の授業で学ぶべき目標の明確性」に関する評価よりも低かったことを踏まえて、シラバスをより講義の内容に即した内容となるよう改善していく。また、教員と学生の双方向性を改善できるよう、講義のスタイルを改善していく。	
79	建築設計製図学	18346344	21	11	52%	4.68	すべての項目が4.5以上であり、総合評価4.7と極めて高い評価を得た。	このままでいい。	
80	動物生産科学概論	18347201	39	24	62%	4.1	本講義はオムニバス形式であり教員が入れ替わる授業構成であったが、アンケート項目の殆どで平均点、もしくはそれを上回っており、大きな問題はないと思われる。特に授業の難易度(211)、授業の準備(68)、学習意欲(221)で平均を上回っていた。	殆どの項目で平均点と同等もしくはそれ以上であったが、もっと授業が良くなるように各教員の工夫が必要だと思われる。	
81	無脊椎動物学	18347204	58	41	71%	4.2	アンケートの設問10問の内、9問は科目群平均を上回っていたが、唯一、学生教員とのやり取りの双方向性が3.6と平均を下回っていた。この点については、以前から感じていた点である。しかし、限られた時間数の中で、極めて多様な動物を対象とする無脊椎動物全般について講義することは容易ではない。講義で伝える内容を厳選してはいるが、どうしても伝える一方の講義になりがちである。講義ノートは毎年見直し、最新の内容への更新を心がけているが、そうしたup to dateな内容に配慮することも学生の興味を惹いているようだ。	双方向性を上げるためには、講義内容を切り詰めるしかない。とはいえ、講義内容については全体に興味深く聞いてくれているようであるので、敢えて双方向性を犠牲にするという選択肢も含めて考えたい。	
82	魚類学	18347205	37	24	65%	4.32	全ての項目で科目群平均を上回っており、授業内容および方法は概ね適切であったと判断される。本授業は専門分野における基礎的な知識の習得を目指しており、限られた時間の中ではどうしても一方方向性の授業にならざるを得ず、結果として「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の項目は3.9と低い評価になっていると考えている。「教員の説明はわかりやすかった」、「教員は十分な準備をしていた」、「教員は授業に対して熱意を持っていた」の項目は高い評価であった。	授業期間中に数回、考えさせる課題を与え、次の授業の始めに解説しているが、学生・教員のやり取りの双方向性のアップをめざし、これを増やすことを考えている。	
83	動物学	18347206	43	28	65%	3.96	総合評価は4.1であり、教員の授業準備状況、授業に対する熱意に対する評価は4.3であった。概ね授業に対する評価は高いが、授業の難易度、説明に対しては、改善する余地がある。	左記に記載	
84	飼料学	18347207	44	30	68%	4.35	半数以上の学生が、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」と答えている点、担当講義の点数は、全ての質問項目で平均4.0を超えている点、ほぼすべての質問項目で科目群平均点よりも高い点数となっており、学生から高い評価を受けていると判断できる。	昨年度の授業評価では、「授業の進行をゆっくりしてほしい」および「板書・パワーポイントを読みやすくしてほしい」などの要望があった。「ノートへの書き写しが間に合わない」といったコメント記述もあった。それを受け、今年度は、講義速度の改善や丁寧な板書、スライド作成を行った。その結果、そういったコメントはなくなっており、現在の授業のやり方を次年度も継続することが望ましいと判断できる。	授業評価がWEB入力形式になり、回収率が減っている点は気になる。最終試験終了時に、アナウンスはしたものの、、、自由記述欄への書き込み数も減っている。スマホで入力するためか？
85	動物生理学	18347208	41	31	76%	3.77	履修登録者41名中、31名が回答した(75.6%)。全項目を通して、担当講義の満足度は平均3.4-4.1であり、おおむね授業内容や実施方法は適切であったと考えられる。特に高い満足度は「シラバスの学習目標は明確だった」(平均4.0)、「教員は授業に対して熱意を持っていた」(平均4.0)、「授業には遅刻することなく毎回出席した」(平均4.1)の項目であった。1(全く思わない)の回答があった項目は、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」(3名)、「授業の難易度は適切であったか」(1名)、「教員は授業に十分準備して臨んでいた」(1名)であった。「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」および「授業の難易度は適切であったか」については、2(そう思わない)を回答した学生もそれぞれ6名あり、比較的満足度が低い傾向が見られた。	授業内容や授業への取り組み、またシラバスの記載はおおむね満足度が高いため現状を維持しながら情報の更新に努める。出席の取り扱いに関する自由記述があったため次回から考慮する。学生と教員とのやり取りの双方向性については、オフィスアワーにおける学修相談やメールによる質問受付が可能であることを授業中に周知しているにもかかわらず活用されていないため、シラバスに記載して明確にする。授業の難易度については図解を増やすことや補足資料の配布などにより対処する。	
86	水族生理生態学	18347209	87	58	67%	4.39	総合的には学生の満足が一定数以上得られていると思うが、「内容が多くて大事な点かわからない」という意見もあった。	内容が多い、という点については、各回の内容をより絞って解説することを心がける。また、今回は講義室が広く、対話による情報交換や学生の反応を得にくい点もあったことから、次回は1つ小さめの講義室で行う予定である。	
87	動物組織学	18347210	46	31	67%	3.68	履修登録者46名中31名が回答した(67%)。1限目が講義時間に指定されているため、遅刻する学生が少なくなかった。可能ならば、2限目開講への移動も考えざるを得ないと思われる。	学生の学習意欲を向上させる授業を目指したい。	
88	草地学	18347307	15	10	67%	4.27	平均を上回る項目があった一方、毎回の授業での学ぶべき目標、学生との双方向性にかける傾向が認められた。	評価の低い項目を含めて、さらに学生の学習意欲を向上させる授業を目指す。	

## 平成30年度後期・学部授業評価まとめ

整理番号	講義名	講義コード	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
89	畜産食品化学工学	18347308	25	20	80%	4.31	アンケートの回収率は80%であった。全項目の評価平均値は4.3であり(科目群平均値は4.1)、特に共-81(授業者の特徴)、共-68(インストラクション)、共-53(学修デザイン)に相対的に高い評価が得られた。一方で、共-211(授業の難易度)に対しては3.9と低い評価であり、次年度の改善項目であることが分かった。概ね良好な授業評価であったと考えられる。 本講義ではPowerPointのハンドアウトを一切配布せずに、ノートを自作するよう指導した。また、実際の実験結果に対して具体的な疑問点を提示し洞察させることを複数回行った。これらの試みは学生の集中力を高める効果があったと考えられた。	前項の分析結果を受け、講義内容を更に精査・整理し、学習の目標をより明確化するよう努める。前期の「動物性食品製造学」で講義しきれなかった内容をこの「畜産食品化学工学」の前半に講義しているため、「動物性食品製造学」と連動した講義科目であることをアナウンスする。また、授業の双方向性、調べる姿勢、考える力、能動的な姿勢に関しては、これらを向上すべく講義の形式や内容を更に改善する。実際の実験データを示しつつ講義を展開したが、これ以外の工夫も今後実施する。また、授業評価の回収率を更に高めるよう、本趣旨などを含めて指導する。	特になし
90	生物統計解析	18347309	22	12	55%	4.58	本講義は4人の教員で分担して行う授業構成であったが、全てのアンケート項目で平均点を大きく上回っており、問題はないと思われる。	具体的な統計解析をPCと解析ソフトRを用いて行っている。さらに理解が深まるような各教員の工夫が必要だと思われる。	
91	水族生化学	18347322	18	5	28%	4.36	概ね満足すべき学習効果が得られていると考えられるが、試験の結果から、理解が難しい内容がいくつか残ることがわかった。	難解な内容にさらに説明の工夫を加える。動画等の利用、より双方向的なアプローチを目指す。また、アンケート回収率の向上を目指す。	
92	浮遊生物学	18347324	29	11	38%	4.65	まず回収率が38%と低かったのは反省すべき点である。講義をポジティブに感じた学生が積極的にアンケートに回答した可能性があるものの、全ての項目で科目群平均を上回っており、総合評価も4.9であったので、講義の実施方法には大きな問題はなかったとらえている。	アンケートの回収率を上げるために周知を徹底して、より正確なデータを取得できるように努めたい。双方向性が平均より高かったものの、教員の思いつきの質問などが多かったため、質問の内容・タイミングをさらに吟味して講義を実施する。また「より深く学びたいか」が若干低調であったので、より最新のトピックを盛り込んでいきたい。	
93	水産増殖学	18347326	27	8	30%	4.3	アンケートの回収率は29.6%とかなり低いので、評価の信頼性に疑問が残るが、全ての項目で科目群平均を上回っており、授業内容や授業方法に特段問題はなかったものと考えている。難易度、双方向性、学修意欲は3.9-4.0と低く、次年度の改善点であると認識した。	アンケートの回収率を高めるためのアナウンスを徹底する。難易度については、説明方法や講義速度に配慮し、双方向性については適宜、質問の時間を設定する等で対処することによって学修意欲の向上をめざしたい。	
94	海洋資源化学	18347328	23	10	43%	4.68	全ての項目で科目群平均を上回っていたので、まずまずの講義ができたのではないかなと思う。「学ぶべき重要な目標を明確に示した」、「教員の説明はわかりやすかった」、「教員は十分な準備をしていた」、「教員は授業に対して熱意を持っていた」の項目は4.9以上の高い評価であった。特に、「教員は授業に対して熱意を持っていた」の項目は、5.0でこちらの熱意が伝わったのかと思うと率直に嬉しかった。	3月末で定年退職のため、これが最後の講義となります。	ネットでアンケートを回収できるようになり、教員の負担は軽くなった。